

建設 ながの

(一社)長野市建設業協会
長野県建設業協会長野支部

広報誌

11
2023
(令和5年)
No. 225



信州新町の秋

山々が赤く染まる晩秋。長野市から白馬、大町方面に向かう西山地区も車を走らせながら美しい紅葉を楽しむことができます。犀川のエメラルドグリーンと遠く見える雪化粧した北アルプスとのコントラストも見事。今回はドローンにて上空からその美しい紅葉を撮影しました。(中島 麻希 2022年11月24日撮影)

目次

2. ■ 「長野市の財政状況と

令和6年度予算編成に向けて」

長野市財政部長 卯田 圭吾

3. ■ 残土処分場の確保などを要望

長野市職員と土木技術懇談会

4. ■ 長野市建設業協会 理事会で上半期事業を報告

■ 裾花川左岸でごみ拾い

■ けんせつ杯中学生野球大会

5. ■ 「50歳代半ばにして」

長野県建設業協会長野支部副支部長 小山田 雄治

■ 薬師沢石張り水路工の草刈り作業に参加して

犀協会砂防委員長 北澤 宏充

6. ■ 真田幸民をめぐる人々

松代文化施設等管理事務所 研究員 山中 さゆり

7. ■ 長野工業高で出前授業、副支部長2人が講師

■ 建設「長工すそばな会」全役員再任

長野市の財政状況と令和6年度予算編成に向けて



長野市財政部長
卯田 圭吾

日頃から、県建設業協会長野支部及び長野市建設業協会の皆様には、本市行財政の推進に格別の御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今回は、長野市の財政状況及び令和6年度予算編成についてご紹介させていただきます。なお、文中意見にわたる部分は私見を含んでいます。

【長野市の財政状況】

まず、現在の本市の財政状況ですが、令和4年度一般会計決算は、38億円の実質収支となり、3年連続で財政調整基金を取り崩さずに決算を締めることができました。また市債残高も減少してきており、健全財政を維持できているものと考えています。一方で、本市の財政力指数(※)は0.723(令和4年度速報値)であり、中核市平均(0.776)を下回っています。決して、強固な財政基盤を有しているわけではありません。将来にわたって持続可能な財政運営を行っていくためには、いかに経済基盤を底上げし、税収増を図っていくかが課題であると認識しています。

また、今後5年間にわたる財政推計では、所得環境の改善等により税収増を見込むことができますが、社会保障関係経費の増加に加え、オリンピック施設の長寿命化対策などの大型事業を控え、非常に厳しい財政運営となることを見込まれます。

なお、令和4年度一般会計決算における普通建設事業費などの投資的経費については、前年度と比べ約26億円減の約145億円となっています。これは、災害公営住宅建設の事業完了など令和元年東日本台風災害関連事業費の減少によるものですが、市の単独事業費については、令和4年度予算

から特別枠を設けて取り組みを推進している公共施設の長寿命化対策により、前年度と比べ増加しています。今後は、オリンピック施設を含めた公共施設の長寿命化対策及び国民スポーツ大会に向けた施設整備などにより普通建設事業費の大幅な増加が見込まれます。

【令和6年度予算編成に向けて】

これから編成作業が本格化する令和6年度予算については、「長野市の強みを活かした未来への戦略的な投資」を編成の基本方針とすることとしています。市が持つ強みを活かした新たな取り組みに、積極果敢にチャレンジし、将来にわたってまちの活力を維持向上していくため、未来に向けた投資を行っていくこととしています。

その中で、普通建設事業費については、公共施設の長寿命化対策として、引き続き予算の特別枠を設けて取り組みを進めるとともに、国民スポーツ大会関連の施設整備費、(仮称)若穂スマートインターチェンジに係る整備費などが見込まれます。また、建設業の働き方改革を推進する観点から、令和5年度から週休二日工事の試行を実施していますが、令和6年度から発注者指定型の週休二日工事を実施するよう準備を進めているところです。

今後とも、市民の皆様の安心・安全のために必要な公共事業関係予算を確保してまいります。これらの事業の実施には建設業の皆様の力が必要です。引き続き、御理解、御協力をお願いいたします。(※) 財政力指数：地方公共団体の財政力を示す指数で、基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の過去3年間の平均。

建設関連図書販売サイト

Bookけんせつ Plaza

積算資料・積算資料電子版・
土木施工単価・建築施工単価
<https://book.zai-keicho.or.jp/>

一般財団法人 経済調査会
〒105-0004 東京都港区新橋6-17-15 菱進御成門ビル

残土処分場の確保などを要望

長野市建協 市職員と土木技術懇談会

長野市建設業協会は10月13日、長野市内のホテルで市の土木担当者らと土木技術懇談会を開催した。市から建設部や財政部、上下水道局などの課長、課長補佐ら15人、協会からは46人が出席。協会側は、建設キャリアアップシステムの導入について、県は総合評価落札方式の評価項目で追加対象となっていることから、市でも対象となるか質問。市側は「県や他市町村の状況も注視し、専門委員会の意見も聞きながら評価項目の一つとして検証していく」と答えた。

冒頭、川浦俊樹副会長は「人手不足や技術者の減少、働き方改革への取り組みなど、労働環境の改善が求められる中、提示した要望等について理解と配慮をお願いし、前向きな検討をお願いする」とあいさつした。

懇談の前には、市側が2022年度のしゅん工検査実施状況について解説し、前回の懇談で出た質問や要望に対する進捗状況を説明。意見交換は原山大輔土木委員長を座長に進められた。

協会側は、総合評価落札方式について評価内容の見直し等を行っているかを問い、市側は「総合評価で不調になる工事が多く、その点も踏まえどりの入札に適しているか再検討を行っている。評価項目もどれを入れるかで結果がどうなるか、バランスを考えることも大事。引き続き県の動向なども研究しながら常に見直しを進めている」とした。

市の小規模工事について、協会側は「部局により諸経費率は60～65%となっているが、資材や人件費等の高騰もあり、非常に厳しい施工状況にある。ぜひ、県と同様の80%にしてほしい」と要望。市側は「現場の実情を把握し、必要経費の在り方を改めて整理し、妥当な経費率を検討する」と答えた。

作業で発生する残土処理について、協会側は「土量や土質によっては、設計で想定した処分先から受け入れ拒否をされる場合がある。受注者側の不可抗力の場合は、受け入れ可能な処分先への



長野市の土木担当者ら(左列)と懇談する市建設業協会土木委員ら

運搬や処分費の設計変更を」と求め、市側は「受け入れ地が変更になった場合は、監督員と協議し必要な書類がそろっていれば設計変更できる」と返答。また、協会側は「我々が残土処分場を探すには限界がある。行政で場所の確保をしてほしい」と訴えた。市側は「盛土の規制法もあり、確保は難しいところもあるが、今後、技術委員会に話を持っていき検討すべきことだと認識している」との考えを示した。

市建設部道路課の松本智課長は「総合評価落札方式の今後や、小規模工事のラインについて、現状を考慮しながら検討が必要だと感じる。市も技術職の人材が減っている中、ICTも含めて時代に沿った方法を検討し、協会と共に公共施設建設の担い手育成などに努めていきたい」と述べた。

和田明人副会長は「懇談会は、発注者と受注者が未来に向けて進むべき方向性をつくる一歩になる。今後も市民が暮らしやすいまちづくりに向け協力していきたい」と話した。

**笑顔のある「住まいづくり」は
当協会会員企業にお任せ下さい**

**JBN・全国工務店協会
長野県優良住宅協会**

長野市岡田町124 (長水建設会館内)
TEL 026-227-6226 FAX 026-228-6231

長野市建協 理事会で上半期事業を報告

長野市建設業協会は9月15日、本年度第2回理事会を開催し、上半期の事業報告を行った。正副会長が、7月に荻原健司市長へ公共事業予算の確保と週休2日工事の推進・工事発注の平準化、建設DXの推進を要望。9月6日には、西沢雅樹副市長、財政・建設・都市整備の各部長と懇談会を行い、電子契約の導入や建設業担い手不足における行政との連携、職種バランスのとれた総合評価落札方式の検討などを求めたと報告した。

市幹部との懇談について、湯本宜成会長は「市側から、電子契約は業務の効率化などで有益であ

り、前向きに検討を進めている。担い手不足に対する連携として、小中学校長寿命化工事の中で、工事見学会の開催などの取り組みを教育委員会に伝えるとの回答があった」と報告した。

災害等対応用土のうは、5月23日に56社から120人が参加して5千袋を作成し、川合新田と氷鉋の防災倉庫や支所、分署等21カ所に搬送。5～8月に6700袋を消防署や支所に搬送した。

議事修了後は、三井住友海上火災保険からサイバー攻撃の危機に対応するためのサイバーセキュリティについて情報提供を受けた。



裾花川左岸で
ごみ拾いに汗

県建設業協会长野支部と長野市建設業協会の役員、事務局職員は10月11日、長水建設会館前の裾花川左岸の河川敷と道路のごみ拾いを行った＝写真。ゴミ拾い作業は、地域貢献と地元への感謝の意味を含め、「きれいな信州環境美化キャン

ペーン」の一環として、毎年秋に実施している。

作業服を着た理事ら25人が腕章を巻いて参加。長水建設会館から上流側の県長野保健所から下流の裾花橋までの河川敷や堤防道路を歩き、協会事務局が用意したごみ袋やごみばさみを手に、環境汚染の原因となるペットボトルやレジ袋などのプラスチック類のほか、紙屑やタバコの吸い殻、空き缶などを時間をかけて丁寧に拾い集めた。

飯島泰臣支部長は「環境美化を通じて地域に建設業への理解を深めてもらえるよう有意義な活動にしていく」、湯本宜成会長は「足元に気をつけながら安全に作業を行いマナーの向上につなげていく」と話していた。

猛暑の中12チームが熱戦 けんせつ杯中学生野球大会



県建設業協会长野支部は、スポーツを通じた青少年の健全育成を目的とした「第15回けんせつ杯中学生野球大会」を9月

16、17の両日に長野市内の4会場で開催。長野

市や千曲市などの中学校、地域クラブ12チームによるトーナメント戦が行われ、選手たちは猛暑の中、力強くバットを振り全力疾走を試み熱戦を繰り広げた。

長野市柳原の邦友グラウンドで行われた決勝戦は、裾花・東部・長野日大中学校で構成された連合チームと、篠ノ井西中学校が対戦。最終回の7回まで2-2の同点が続き、8回は無死満塁のタイブレーク方式で延長戦が行われ、連合チームが8点、篠ノ井西が4点を追加し、10-6で連合チームが勝利し優勝を果たした。表彰式では、同けんせつ杯運営委員の西澤猛彦委員長が優勝旗や優勝カップなどを手渡し、健闘をたたえた＝写真。



50歳代半ばにして

長野県建設業協会長野支部
副支部長 小山田 雄治

やばい。締め切り過ぎていた…ということで何を書くのか迷いましたが、今思うことをダラダラ書かせてもらいます。

自分では若いつもりでいましたがすでに50歳代半ばになり、建設業界に入り30年も越え我武者羅にやってきた40歳代までと違い、体がおっつかないと感じるこの頃です。ちょうど50歳を迎えたころ新型コロナウイルスの蔓延に伴い様々な行動制限がかかり今までの生活が180度変わってしまいました。それまで仕事もプライベートも平日休日昼夜問わずアクティブに行動していた自分にとって経験したことのない状況でした。とはいえ、働き方改革を進めなくてはいけない中で、自分や社員の生活スタイルを見直す良いきっかけができたと感じています。

そんな中50歳を越えた自分にサイクリングが新しい趣味として加わりました。きっかけは、息子に自転車の乗り方を教えているうちに休日は息子と自転車が出かけるようになり、ついには自転車屋さんでみたロードバイクに手をだしてしまいました。今では休日は早朝より自転車で遠出しています。自宅を中心にその日の気分や体調、天候に応じて50km~120kmほど2~5時間くらいのコースを走り気分転換と健康を維持をしています。

自転車に乗っていると今まで見えなかった景色が見えてきます。季節を肌で感じることや「この道路は舗装が痛んでいるなあ」「草伸びてきたなあ」「この道路は歪んでいるなあ」とか、自動車ではわからなかったことが自転車ではしっかりと感じるができるんです。今まで何箇所も道路を作ってきた自分ですが、違う視線で道路をつくるができるようになるかもしれません。

健康維持には大変役立っています。少し高めの血糖値も下がり心臓もつよくなり、筋肉量も増え(ただし体重は数キロしか落ちていませんが…)自転車に乗るために遅くまで飲むことはほとんどなくなり、肝臓も頗る良い数値を保っています。また精神的にも良いリフレッシュができていのように感じます。事故だけはしないように安全に気を使って走るほかは何も考えず、風を感じ、季節を感じ、景色を楽しんでいます。家に着くころには程よい疲れと脱力感、シャワーを浴び、自転車の整備をしてお昼を食べ軽いアルコールからのお昼寝 z z z。そんな休日を楽しんで翌週に備えています。

もう50歳代半ば。されど50歳代半ば。まだまだ仕事もプライベートも、そして家庭も、アクティブにポジティブに活動していきたいと思います(文面整わない上に内容薄くてごめんなさい)。



薬師沢石張り水路工の草刈り作業に参加して

犀協会砂防委員長 北澤 宏充



恒例行事と なっています薬師沢石張り水路工(上水内郡小川村)の草刈り

が、砂防ボランティア、各砂防事務所、建設部、小川村関係、地域おこし協力隊、関係建設業者、犀協会から多くの有志が集まり8月に実施されました=写真。新型コロナウイルス感染症の位置づけも5類となり以前の賑やかさ、活気がもどった気がしました。

この薬師沢石張り水路工は明治19年に58基が造られ、その後災害等により修繕を繰り返し28基が現在でも砂防施設として機能しています。この機能、景観を長年維持し続けるその陰には5人か

らなる砂防惣代や地元の方々の努力、熱意があり、平成21年には国の登録有形文化財に指定されるまでになりました。

この草刈りに私も毎年参加させていただいていますが、これだけ長く深い歴史のある石張り水路を眺めつつ草を刈り、地元の方々とふれ合いながらこの水路の機能、景観の維持に携わることができた喜びを毎回感じています。

しかし昨年(2022年)の8月の集中豪雨によりこの薬師沢石張り水路工も被害を受けました。国の登録有形文化財に指定されるほどの歴史と文化をもつ水路の被害状況を見ると非常に胸が痛みます。ですが、土尻川砂防事務所により復旧工事が発注され作業が進んでいます。土木、建設業の力、技の見せ所です。こうやってこれまでも、これからも薬師沢石張り水路工は未来へこの姿を残していくんだとこの仕事を誇らしく思いました。

草刈り作業に是非多くの方々に参加していただき、歴史のあるこの石張り水路工から何かを感じていただければと思います。

真田幸民をめぐる人々

松代文化施設等管理事務所
研究員 山中 さゆり

前回お知らせしたように、現在真田宝物館では「真田家と宇和島藩伊達家」という特別展を12月16日まで開催しています。先日は、宇和島市立伊達博物館から学芸員さんをお招きして講演会を開催しました。両家の関係について、3代藩主・真田幸道の正室に伊達家から豊姫が輿入れしていることと、10代藩主・真田幸民（ゆきもと）が養子入りしていることをご紹介します。特に、幸民の養子入り以前のことや、伊達家の家族のこと、養子入り後の伊達家とのかかわりなど、真田家側からはあまりよく調べられていなかった事柄もあり、大変興味深いものでした。そこで今回は、そのお話をもとに、真田幸民と幸民の伊達家の家族について述べたいと思います。

宇和島藩伊達家は、仙台藩・伊達政宗の長男・秀宗を藩祖とし、幕末まで転封がなく、10万石を保った大名家です。現在の愛媛県宇和島市にある宇和島城の天守は、数少ない江戸時代の現存天守で、国の重要文化財に指定されています。幸民は宇和島藩8代藩主・伊達宗城（むねなり）の長男として、1850（嘉永3）年4月に宇和島で誕生しました。幼名は保麿（やすまる）といい、初めの名前は徳鄰（のりちか）といいました。

幸民の生母は側室の栄浦（しげうら）という女性です。栄浦は京都生まれで、宇和島藩家中の武田家に養女として迎えられ、御相伴女中と呼ばれる側室として、宇和島で宗城に仕えていたそうです。栄浦は、宗城との間に、12人の子どもを授かっています。真田宝物館には、幸民の持ち物と考えて間違いない栄浦の肖像画が残されています。幕末から明治初期にかけてのものであるためか、江戸時代のものとは異なりかなり写実的な肖像画で、実際の栄浦の姿をよく表しているものと思われます。彼女の肖像画は宇和島にも残っていないようで、大変貴重なものです。

幸民の父・宗城は男子がいなかった7代藩主・伊達宗紀（むねただ）の養嗣子として、幕府旗本の山口家から迎えられました。山口家には宇和島



真田幸民生母・栄浦（栄信院殿）画像

藩伊達家から5代藩主・伊達村候（むらとき）の息子・直清が養子入りしており、この直清が宗城の祖父にあたります。宗城は幕末の四賢侯の一人で、将軍家の継嗣問題にも関わっていましたが、安政の大獄によって蟄居となり、藩主を辞しました。宗城に代わって9代藩主になったのは、宗紀の実子である宗徳（むねえ）です。宗徳が生まれたのは、すでに宗城が養嗣子となった後でしたが、宗城の養嗣子となり、藩主を継ぐ形をとりました。宗徳は幸民にとっては義兄になります。

幸民の同母弟である伊達宗敦は、仙台藩伊達家に養嗣子として迎えられています。戊辰戦争では奥羽越列藩同盟に加盟したことで廃嫡となり、家督を継ぐことはありませんでしたが、明治に入ってから新しい家を創設し、男爵となっています。

1889（明治22）年には100歳という長寿を迎えた伊達宗紀が宇和島で祝賀会を開催しています。この会には、幸民をはじめ、父・宗城、祖父・宗紀、義兄・宗徳、実弟・宗敦、同母妹で公家の柳原家に嫁いだ初子ら宇和島藩伊達家出身の人々が集まり、記念に撮影された家族写真が残っています。宗紀は能書家としても知られており、70歳から100歳までの間に、多くの書を書き遺しています。100歳で書いた書は「百歳書」と呼ばれ、多くの著名人から要望があり、黒田清隆や勝海舟らにも求めに応じて書を贈っていた記録が残っているそうです。特別展ではこの宗紀の書をはじめ、伊達家に関わる資料を数多く展示していますので、両家の関係を思い描きながら、ぜひご覧いただければと思います。

長野工業高で出前授業

副支部長2人が講師

長野工業高校で10月24日、県建設業協会長野支部による建築と土木について学ぶ授業が開催された。建築については、同支部の徳武信行副支部長（ナガノ建築サービス社長）が、土木は小山田雄治副支部長（小山田組社長）がそれぞれ講師となり、建築学科2年生35人と土木工学科2年生32人を対象に講義を行った。

徳武副支部長は、建設業を紹介するガイドブックや写真を基に、建設産業の役割と同社が行っている建築業務などを紹介し、「家や学校などをつくる建設業は、人の生活や命を守り、時に信頼と感謝もされる誇りある仕事」と述べ、「建設業は、一級建築士などさまざまな資格があるが、それらを取得することで自信につながる。資格は就職してからでも挑戦できるので、将来、建築の仕事を考えているなら、今から自分なりに知識を蓄え備えることが大切」とアドバイスを送った。

小山田副支部長は、技術者と技能者の違いや測量業の必要性、仕事のやりがいなどについて講演。技術者と技能者について、「両者の力を合わせる



ことで工事が円滑に進む。どちらの立場で会社に入っても、仕事を続ける中で両方をこなせるようになる人も多い」と話し、測量については、建設現場のスタート時に必要な業務と説明し、「目指すなら、測量士や土木施工管理技士などの資格が必要」と助言した。

土木業のやりがいについては、自身が携わった億単位の砂防ダムの建設を振り返り「苦労もあったが、完成後は地域で豪雨災害は発生しておらず、社会のためになれたと自信につながった」と述べ、「休日や福利厚生も大事だが、一番はその仕事にプライドを持ち愛すること。建造物は長く形に残り、自分がつくったと家族や友人にも自慢ができる。女性も含め、建設業は働きやすい環境が整いつつあるので、今日を機にこの業界についてより関心を深めてほしい」と呼び掛けた。



建設「長工すそばな会」 和田会長ら全役員再任

長野工業高校を卒業して、建設業界、建設関連業界に勤務する人や勤務経験者、公務員OBらで構成する「長工すそばな会」の第38回通常総会が9月7日に長野市内で開かれ、任期満了に伴う役員改選で、和田幸文会長をはじめ、副会長の岡澤元夫氏、戸谷隆氏、幹事長の清水則昭氏、会計の寺沢祐司氏ら全役員を再任した。昨年4月、在任中に急逝した徳武良彦前会長に代わり就任した和田会長は「他の役員も留任いただき心強い。新入会員の増員など、引き続き活発な活動ができるよう協力をお願いしたい」と述べ=写真、新たに5人の入会が

あったことを報告した。

来賓で出席した長野工業高校の橋詰正克教頭は「新型コロナの影響はまだ収まりを見せないが、生徒たちの成長のために行事を行うことは必要。学業や部活など、さまざまな活動で引き続き支援をお願いしたい」と話し、同窓会本会の藤沢敏明会長は「皆さんの魅力を学校側に伝えていただき、建設業界に大勢の生徒が入り、将来の同窓会仲間を増やしてほしい」とあいさつした。

長野工業高校からは橋詰教頭のほか、建築科の川俣晃、土木科の宮之内俊、同窓会事務局長の石山博章（物質科学科）の各教諭が出席した。

新年度事業計画には、研修会や親睦会の開催などを盛り、会と会員発展につながる事業を行うことを確認した。懇親会では校歌を歌い上げ旧交を温めた。

長野県建設業協会長野支部

- 9月 1日 △スポーツ大会運営委員会
- 9月 4日 △建設技術実践プロジェクト現場見学会
△二団体合同役員会
- 9月 7日 △衆議院議員小淵優子氏を囲む会
- 9月16～17日 △第15回けんせつ杯野球大会
- 9月 20日 △技術専門研修 (No.1) (技士会共催)
- 9月 21日 △「SDGsを实践する建築工学の普及」
コンソーシアム
- 9月 28日 △女性部会
- 10月 2日 △正副支部長会議
- 10月 11日 △きれいな信州環境美化キャンペーン
(市協会合同)
- 10月 18日 △監理技術者講習会
△女性部会
- 10月 24日 △長野工業高校授業支援 (土木科・建築科)

長野市建設業協会

- 9月 4日 △二団体役員会
- 9月 5日 △正副会長会
- 9月 12日 △土木委員会
- 9月 15日 △理事会
- 9月 25日 △広報委員会
- 10月 11日 △きれいな信州環境美化キャンペーン
(支部合同)
- 10月 13日 △土木技術懇談会
- 10月 17日 △建築委員会

関連団体

- 9月 6日 犀協会：△砂防技術者セミナー
- 9月 9日 技士会：△1級土木施工管理技士受験
準備講習会
- 9月12～13日 建災防：△足場の組立て等作業主任者
技能講習会
- 9月 16日 技士会：△1級土木施工管理技士受験
準備講習会
- 9月 20日 建災防：△正副分会長会議
技士会：△技術専門研修 (No.1) (長野支部共済)
- 9月 21日 長住協：△「SDGsを实践する建築工学の普及」
コンソーシアム
- 9月 22日 建災防 △建設業職長等能力向上教育
研修会
- 9月 27日 建災防：△安全指導者会
- 10月5～6日 建災防：△建災防全国大会 (広島)
- 10月 14日 技士会：△2級土木施工管理技士受験
準備講習会
- 10月 17日 建災防：△現場管理者統括管理講習会
- 10月 20日 技士会：△準備講習講師反省会
- 10月 23日 建災防：△施工管理者等のための足場
点検実務者研修
- 10月 27日 建災防：△安全パトロール
△パトロール結果報告会・労働災害防止集団指導

会員動静

●代表者変更

高木建設(株) (支部・市)
 嗣 高木垂矢子 回 高木正雄

●所在地変更

川中島建設(株) (支部・市)
 嗣 長野市篠ノ井岡田200番地1
 回 長野市篠ノ井布施高田955-3

編集後記

今回は、旅の話させていただきます。
 以前、四国88箇所歩き遍路をやってみました。雨風に打たれ乍、黙々とただひたすら歩きましたが、無事「結願」(けちがん)する事ができました。一期一会の貴重な出会いをいただきました。
 その後、一念発起して自転車での旅をしようと思立ち、60年ぶりに自転車を買いました。ところが、長い間乗らなかったせいか怖くてフラフラして困りましたが、繰り返し練習をしていたら昔の感覚が甦って乗れるようになってきたのです。
 そこで、信濃33番札所巡りをしようと思ひ、北は飯山、南は伊那市西箕輪まで自転車を走らせ、歩き旅とは異なった爽快さを感じました。
 そして次は秩父34箇所札所巡りをと思ひ今度は自家用車に自転車を積んで秩父まで行き宿泊し、三日間かけて自転車で参拝してきました。
 いずれの旅も、大勢の人との素敵な出会いが沢山あり、人生の1ページを飾ることができました。こうした日々を送れることに感謝しつつ、健康に留意しながら過ごしていきたいと思ひます。(山口信秋)

ご意見・投稿をお待ちしています。

発行所 一般社団法人長野市建設業協会

http://www9.plala.or.jp/sikenkyo/
 長野市岡田町124-1 長水建設会館内
 TEL026-224-3660 Fax026-228-6231
 長野県建設業協会長野支部

http://w2.avis.ne.jp/~nkn/
 長野市岡田町124-1 長水建設会館内
 TEL026-227-6226 Fax026-228-6231

発行責任者 飯島 泰臣 湯本 宜成

編集責任者 柳沢 昌宏

編集製作 長野経済新聞社

建設ながのNo.225 令和5年11月発行